



だて正夢



いのぶき  
玄米  
みやぎ県産

# 登米地域の稲作通信 第6号

令和6年7月11日発行  
宮城県米づくり推進登米地方本部  
宮城県登米農業改良普及センター  
Tel: 0220-22-6127

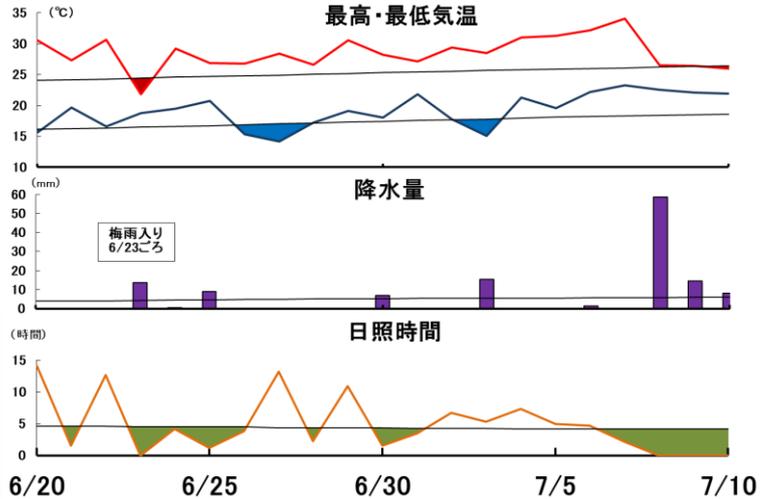


<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

観測地点：米山アメダス

## 【気象経過】

7月上旬の平均気温は平年よりも3℃以上高く推移しました。降水量は7月8日に50mmを超える降雨があり、7月上旬の降水量は平年比173%となりました。日照時間は平年比117%とやや平年を上回っていますが、7月8日～10日の3日間は0時間で推移しています。



## 1 生育状況

### 【移植栽培】

【水稻生育調査結果(移植)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	栽植密度(株/m <sup>2</sup> )	移植日	7月1日			7月10日			
						草丈(cm)	茎数(本/m <sup>2</sup> )	葉色(GM)	草丈(cm)	茎数(本/m <sup>2</sup> )	葉色(GM)	幼穂長(mm)
1	ひとめぼれ	Cタイプ	中田町	15.9	5月19日	49.8	473.8	40.9	63.1	510.4	43.4	0.8
					前年比・差 +5日 99%	102%	0.3	100%	106%	3.3	-0.9	
2	ひとめぼれ	Cタイプ	登米町	16.0	5月16日	53.6	508.8	42.0	65.4	521.6	41.6	2.8
					前年比・差 ±0日 108%	100%	2.4	105%	112%	4.1	0.5	
3	ひとめぼれ (晩期栽培)	—	米山町	20.8	5月29日	29.4	183.0	38.4	43.8	349.4	43.9	—
					前年比・差 —	—	—	—	—	—	—	
4	ササニシキ (復活ササニシキ)	Cタイプ	豊里町	14.8	5月13日	49.0	458.8	38.9	59.3	448.4	36.9	0.9
					前年比・差 +1日 100%	87%	-0.2	98%	91%	-0.1	-0.3	
5	つや姫	Cタイプ	迫町	15.3	5月6日	61.3	550.8	36.6	69.2	485.0	33.5	1.2
					前年比・差 —	—	—	—	—	—	—	
6	だて正夢	—	迫町	19.3	5月14日	58.3	497.9	41.1	69.2	461.3	39.1	1.7
					前年比・差 -7日 120%	94%	-0.8	99%	90%	-1.1	1.4	
7	金のいぶき	—	登米町	16.5	5月14日	56.3	696.3	39.6	71.5	645.2	40.3	0.7
					前年比・差 +5日 94%	101%	-1.3	98%	123%	4.7	-0.4	
8	つきあかり	—	豊里町	19.3	5月4日	71.2	378.3	39.2	79.4	351.3	37.9	39.0
					前年比・差 —	—	—	—	—	—	—	

※栽培タイプ

Cタイプ：農薬・化学肥料節減栽培（慣行栽培の5割減；農薬8成分、化学窒素成分3.5kg以下）

※平年値は、過去5か年（令和元年～令和5年）の平均値。

ただし、金のいぶきは調査4年目のため、過去3か年（令和3年～令和5年）の平均値。

※ひとめぼれ(晩期栽培)、つや姫、つきあかりは調査1年目のため、本年値のみ。

7月10日現在の生育状況は、管内の生育調査ほのひとめぼれについては、草丈、莖数、葉色とも平年を上回っています。晩期栽培のひとめぼれは莖数が順調に増加しています。だて正夢は、草丈が概ね平年並、莖数、葉色は平年をやや下回っています。金のいぶきは、草丈は概ね平年並、莖数、葉色は平年を上回っています。

ひとめぼれ（登米町）、つや姫、だて正夢は幼穂形成期、つきあかりは減数分裂期に達しています。

## 【直播栽培】

### 【水稻生育調査結果(乾田直播)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	播種月日		苗立ち本数 (本/㎡)	7月1日			7月10日		
							草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	葉色 (GM)	草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	葉色 (GM)
1	ササニシキ	アラカ耕 グレイドル 体系	米山町	4月26日		79.1	46.1	448.6	36.7	56.1	566.1	36.3
					前年比・差	70%	136%	174%	-1.0	116%	129%	-3.4
					平年比・差	103%	118%	134%	-1.0	109%	121%	-3.0

※ササニシキは調査4年目のため過去3か年の平均値を使用。

7月10日現在の生育状況は、草丈、莖数は平年を上回り推移しています。葉色は前年、平年を下回っています。

## 2 今後の管理

### (1) 生育ステージの予測

管内の過去5か年平均の出穂期は8月1日頃です。今年も同時期になる見通しです。

生育ステージの予測値（7月10日現在）

移植日	5月1日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日
幼穂形成期	6/27~7/1	6/29~7/3	7/1~7/5	7/4~7/8	7/8~7/12	7/11~7/15
出穂期	7/23~7/27	7/25~7/29	7/27~7/31	7/30~8/3	8/3~8/7	8/6~8/9

※主稈葉齢予測モデル（普及に移す技術第80号）を用いた予測値。移植時葉齢を2.5葉~3.5葉として予測。  
平均気温は7月9日までの米山アメダスの実測値。

☆幼穂の長さとお穂までの日数の目安

発育過程		出穂前日数	幼穂長	葉耳間長
幼穂形成始期		25日前	1~2mm	
減 数	始期	15日前	3~4cm	-10cm
分裂期	終期	10日前	8~10cm	±0cm

### (2) 水管理

幼穂形成期に達したら、中干しを終了し間断かん水や飽水管理を行い、根に酸素と水分を与えましょう。

水分が不足すると、幼穂の発育や開花受精が妨げられて減収につながります。水を切らさないよう管理しましょう。

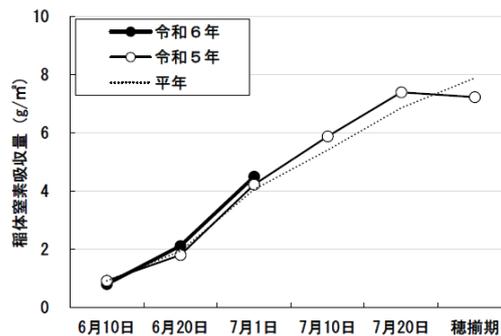
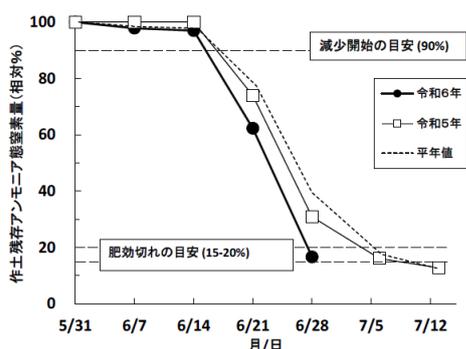
○飽水管理の方法

水田の足跡に水がなくなったら入水し、表土が十分に湿ったら落水します。  
土壌を湿润状態に保つようにしましょう。

### (3) 追 肥

本年のアメダス（米山）の3、4月積算降水量は182mmで平年を上回っており、乾土効果の影響は小さく、土壌窒素発現量は平年並と見込まれます。

本年の施肥窒素の減少は平年、昨年よりも早く、また、稲体窒素吸収量は平年よりやや多く推移しています。作土に残っているアンモニア態窒素量は肥効切れの目安の15~20%に達しているため、葉色が淡くなってきたほ場では追肥を行いましょう。



#### 土壤中残存アンモニア態窒素量の減少経過

注1) 残存アンモニア態窒素量は、株間および条間の中央部から採取した作土中のアンモニア態窒素量 (mg/100g乾土) とし、移植後の最も高い値を100とした相対割合で示した。

2) 平年値の月/日と残存アンモニア態窒素量は令和元年~令和5年の5年間における平均値

#### 稲体窒素吸収量の年次比較 (ひとめぼれ生育調査ほ7/1)

注1) 稲体窒素吸収量は、草丈、莖数、葉色及び移植後の有効積算気温から推定。気温は農研機構のメッシュ農業気象データシステムから得た。

幼穂形成期追肥は下位節間の伸長につながりますので、草丈が長い、莖数が多く倒伏の危険性があるなどの場合は、幼穂形成期追肥を避け、減数分裂期に追肥しましょう。

環境保全米では、栽培期間中(育苗+本田)に使用できる化学肥料の窒素成分量が決まっています(合計 3.5kg/10a)ので、これまでの施用量を計算して追肥量を決定しましょう。

表 追肥時期別の施肥量

品 種	幼穂形成期(出穂25~20日前) ＜幼穂長:1~2mm＞		減数分裂期(出穂15~10日前) ＜幼穂長:3~12cm＞	
	窒素成分量	現物量 (NK化成C68号の場合)	窒素成分量	現物量 (NK化成C68号の場合)
ひとめぼれ、金のいぶき	1.0kg/10a	6.3kg/10a	1.0kg/10a	6.3kg/10a
ササニシキ	—	—	1.0~1.5kg/10a	6.3~9.4kg/10a
だて正夢	—	—	2.0kg/10a	12.5kg/10a
つや姫	2.0kg/10a	12.5kg/10a	—	—
つきあかり	1.0~2.0kg/10a	6.3~12.5kg/10a	1.0~2.0kg/10a	6.3~12.5kg/10a

#### (4) 病虫害防除

＜発生予報第5号 7月8日 宮城県病虫害防除所＞

- ◆葉いもち 発生時期「平年並(7/11~7/15)」 発生量「平年並」
- ◆紋枯病 発生量「やや多」
- ◆稲こうじ病 発生量「やや少」
- ◆斑点米カメムシ類 発生時期「早い(7/11~7/15)」 発生量「平年並」

#### 葉いもち

発生量は平年並となっていますが、向こう1か月の平均気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想され、葉いもちが発生しやすくなる可能性があります。特に、莖数が多く、葉色の濃いほ場は葉いもちの発生に注意しましょう。発病が見られたときには速やかに茎葉散布剤で防除してください(環境保全米Cタイプで発生がみられた場合はJAにご相談下さい)

## 紋枯病対策

昨年発生したほ場では、本年も発生することが懸念されます。また、高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く、降水量は平年並か多いと予報されているため、注意しましょう。防除時期は出穂直前の穂ばらみ期（7月下旬ごろ）です。要防除水準（収量が5%以上の減収を想定して防除する場合は、穂ばらみ期の発病株率が「ひとめぼれ」で18%、「ササニシキ」で10%です。（環境保全米Cタイプで防除を検討する場合は、JAまでご相談ください。）。

防除要否の判断基準（被害確率50%で設定）

被害許容水準	穂ばらみ期発病株率		
	ひとめぼれ	ササニシキ	コシヒカリ
収量5%以上減収	18%	10%	29%
収量3%以上減収	12%	9%	18%
収量1%以上減収	10%	3%	14%
白未熟粒3%以上増加	67%	28%	51%
白未熟粒1%以上増加	11%	-	12%

## 稲こうじ病対策

田面に落下した厚壁孢子が越冬し、発芽することで感染します。前年発生が多かったほ場では土壌菌量が多いため、本年も発生するリスクがあります。また、出穂前に降雨が多いと発生が多くなる傾向があります。前年に多発したほ場では、出穂 20～10 日前に銅剤による予防防除を行いましょう。紋枯病と同時防除可能な水面施用剤での対応も可能です。

## 斑点米カメムシ類の防除

イネ科雑草（特にイタリアンライグラス等）の多い畦畔では、斑点米カメムシ類が誘引されて産卵・繁殖する場所となり、斑点米被害につながる可能性が高くなります。計画的に畦畔の除草を行いましょう。

ただし、出穂期前後の草刈りは水田内に斑点米カメムシ類を追い込むこととなりますので、畦畔草刈りは水稻の出穂 15～10 日前まで に終了するようにしまししょう。

今年の管内の平均出穂期は8月1日ごろになる見通しですので、7月20日ごろまでには草刈りを終了するようにしまししょう。

## イネツトムシ（イチモンジセセリ）の防除

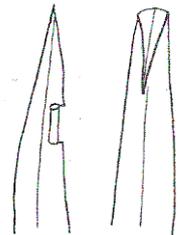
イネツトムシの葉の食害による減収被害は大きく、防除の対象になるのは8月上旬頃に発生する第2世代幼虫です。

防除適期：第2世代若齢幼虫発生盛期（7月下旬～8月上旬）

株当たり 0.5 個以上のツトが見られる場合は防除を行いましょう。

防除適期は若齢幼虫期の短い期間に限られます。若齢幼虫の形成するツトを見逃さないように注意してください。

特に、葉色の濃い稲や生育ステージの遅い稲（直播栽培を含む）を好んで産卵する傾向があるので、これらの稲では発生に注意してください。



図：若齢幼虫の形成するツト

6月～8月は「農薬危害防止運動」期間です。

農薬はラベルをよく読んで適正に使用しまししょう。

## 農業用水不足時における今後の水管理について

宮城県米づくり推進本部  
令和6年7月11日

- 県内各地のダムでは、平年よりも貯水量が少ない状態が続いており、今後1か月の降水量が平年を下回った場合、8月に十分な農業用水が確保できなくなる可能性が高まっています。
- 出穂後30日頃までは、限られた用水で「**飽水管理**」を行い、ほうすいかんり土壤を湿った状態に保ちましょう。
- 「**飽水管理**」は、登熟期間が高温のとき、玄米の品質向上を図る技術としても有効です。

### ほうすいかんり 飽水管理のメリット

- ◎限られた用水で実施可能
  - ◎根の活力維持
  - ◎地温の上昇抑制
    - ↳ 稲体の温度が夜間に下がるため、光合成により作られた養分が籾に転流しやすくなる。
- しろみじゅくりゅう どうわれりゅう  
白未熟粒や胴割粒の発生を抑制できます

### 高温時のたんすいかんり湛水管理のデメリット

出穂期以降の夜温が高いと、「湛水管理」では夜間の水温がなかなか下がらないため、稲体の温度も下がらず、光合成で作られた養分を呼吸で消費してしまう。

⇒ 白未熟粒の発生を助長

### (参考)飽水管理の方法

- ① 水尻を閉める。畦畔からの漏水がないか確認する。
- ② 田面が浸るくらい(ひたひた)に水を入れる。
- ③ 水を止めたら、水尻は閉めたまま、自然減水させる。
- ④ 水田の足跡に水がなくなる頃、又は番水のタイミングで次の水を入れる。

(目安は3~5日おき)

※出穂期前後は稲体が最も水を必要とする時期です。

飽水管理を徹底し、土壤を湿った状態に保ちましょう。

### イメージ図

